

「あなたはやりなおせる」

エゼキエル書 37章 1節～10節
ヨハネによる福音書 15章 1節～17節

説 教 軽 込 昇 牧 師

「あなたはやり直せる」。どんな人間でもやり直せるのです。別の言葉で言えば、悔い改めることができる、ということです。悔い改めると後悔する、二つの言葉は良く似ていますが、全く違います。悔い改めるといのは、正しい方向に向きを変えることです。やり直せると信じることです。初めに造られた、本来のわたしたちに向かって立ち返ることこそ、悔い改めです。ただ、ここに大きな問題があります。信じることもそうですが、悔い改めることも、わたしたちの力ではできない、ということです。神様ご自身の力によるしかありません。

ヨハネ福音書15章は、主イエスの有名なお言葉です。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。わたしにつながっていないさい。そうすればあなたがたは豊かに実を結ぶことができる。」つながることが人間の努力に委ねられているとしますと、わたしたちは敗れざるをえません。だから、わたしがあなたがたとつながってられるように十字架にかかるのだ、と主イエスが仰せくださり、十字架におかかりくださったとわたしは信じるのです。全聖書を通じて、自分の力でキリストにつながることができた人は一人も登場しません。神ご自身が全力をあげて、わたしたちが信じることができるようにしてくださいなのです。

ペンテコステは教会の誕生日であり、わたしたちが神様に愛されているとはっきり示された日でもあります。聖霊なる神様は二千年前のこの日だけではなく、今も、わたしたちに臨んでくださいます。自然に神様を信じた人は一人もいません。わたしたちを信じるものにしてくださった、これが神様ご自身のお働きです。神様ご自身がわたしたちを救い、御子イエス・キリストがわたしたちの罪のために十字架にかかり、そのことをわたしたちに明らかにしてくださるのが、聖霊としての神ご自身なのです。三位一体という言葉を知ったとき、並々ならぬエネルギー・熱意を神様がわたしたちに注いでくださっていることを心に受け止めています。聖霊が降り、主イエス・キリストを信じると、わたしたちが神に愛されていることを素直に信じることができます。わたしたちはやり直せることも信じることができます。

旧約聖書エゼキエル書37章を読みました。枯れた骨が谷一面に累々と横たわっている、そ

れがエゼキエルが見た幻です。神様に対する罪を犯したためにこうなると、イスラエルの人々は受け止めました。しかし神は、骨と骨が集まって、そこに霊が吹き込まれることによって大きな生きたものになるという幻をお見せくださいました。聖霊が降る時、たとえ白骨のようになっているわたしたちであっても、生き返ることができる、やり直せるのです。

聖霊が降る、というのは一度手に入れたらずっと持っていることができるというわけではありません。キリストに対する信仰はいつも、「今」ということが求められています。わたしたちの信仰は揺れています。それでいいのです。ある牧師がこう説明しておられます。磁石の針は揺れ動いているからこそ北を指すことができる。もし北が固定されていたら、どれが本当の北であるか分からない。その通りだと思います。わたしたちの信仰も揺れ動いていいのです。揺れ動くわたしたちの信仰が神を指し示すものとして用いられるのです。

かつてのようなキリスト教への迫害は起きないでしょう。しかし、もし認知症になったら、もし祈りの言葉が出てこなくなったら、それはわたしにも恐怖です。でもそうなったとしても、主イエスがわたしをつかんでくださる力は強い、と今、信じます。最初に歌った讃美歌21-60「よいこになれないわたしでも かみさまはあいしてくださるって イエスさまのおことば」。日曜日ごとに教会でごく普通に礼拝をささげている方に、神様の霊は降るのです。

エゼキエル書に戻ります。骨と骨とが再び集まったとありますが、すべての骨が集まったのか？足りない部分もあったのではないか？そう思いました。わたしたちがやり直せるということは、何もなかったように元に戻るではありません。罪を犯した者が罪を犯したままで神様に赦される、そういう歩みをわたしたちは受けています。

わたしたちにとって大切なことは主イエス・キリストにしっかりと結びつくことです。おすおすでも「天にまします我らの父よ」と祈り始める時、そこには聖霊が働いてくださっています。

(記 説教要約奉仕者)